

介護職の人材育成・ 人材マネジメントのヒントを情報発信！

～介護職員及び組織に対する育成をトータルサポート～



NEWS LETTER

発行元：ピーエムシー株式会社

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺 1-35-4

TEL:0256-47-3686 FAX:0256-35-0158

<https://www.pmc-jinzai.com/>

過去のニュースレターは HP からご覧いただけます

介護現場における ICT 機器活用の課題と対策

こんにちは ピーエムシー株式会社の斎藤洋です。

前回のニュースレターでは、AI を介護人材育成に活用したいという「これから」のことを書きました。今回は現在の介護現場の大きなトピックのひとつである「ICT 機器の活用」について書こうと思います。

ICT 機器は記録や見守り、排泄介助などの場面で介護職の負担軽減とケアの質向上の目的で活用がはじまっています。

しかし、弊社がおこなっているリーダー研修の中でも
・「機器を導入しても負担が軽減しない」「使い方がわからない」といった不満の声ばかりが聞こえる。
・現場をよくしたいという思いで導入した ICT 機器が、かえって職員のモチベーションを下げてしまっている。等、現場からの声が聞こえてきます。

なぜ ICT 機器の導入がうまく行かないのか。

今回のニュースレターではその要因と対応策について検討しようと思います。



ICT 機器導入の目的や背景が職員に伝えているか

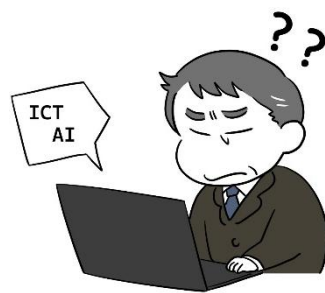
ICT 機器の導入には「介護職員の負担軽減」「ケアの質向上」という目的があります。さらに、介護報酬の加算や処遇改善交付金の要件として導入を求められるという背景もあります。

しかし、こうした事情が現場に伝わっていないまま導入されてしまうと、何のために機器を導入するのか現場は理解できず、機器導入にあわせた業務ルールの適切な見直しが出来ません。

介護報酬加算取得のために設置する委員会等も、その趣旨が分からないと不満や負担感が大きくなります。機器の導入時には、目的・導入理由「・スケジュール等を現場にしっかり伝えることが重要です。

導入時の説明・教育を行っているか

ICT に対するリテラシーは個人差が大きく、とくに高齢の介護職員は機器導入に対して苦手意識を持ちやすい傾向があります。まず、ICT に前向きな現場の職員をキーパーソン（ICT 担当）として育成し、他職員をサポートできる体制を整えましょう。その上で、ICT 活用に関するレクチャーを全職員に行うことが必要です。



勤務の都合もあるので複数回実施することが理想です。

ICT 機器の導入や積極的活用は、職員採用の際にも大きなアピールポイントになります。

導入後のフォロー体制を整えているか

ICT 機器を適切に活用していくには導入後のフォロー体制構築が非常に重要です。機器導入からしばらく時間が経っても操作に関する疑問や不安を抱え、それを聞く機会が持てずにいる職員が必ずいます。

たとえば ICT 担当を中心に、Google フォームやチャットツールを活用して職員の困りごとを拾い上げ、適切に対応する仕組みがあると安心です。

また、「介護負担が軽減された実感があるか？」という現場の声を集め、管理者がフィードバックを受け取るサイクルも大切です。



主任研修講師 斎藤 のつぶやき

ICT 機器はまだまだ発展途上です。例えば離床センサーは AI 精度を向上させることで、ご利用者の身体状況の正常・異常を見分けてアラームの鳴動を減少させるなど日々進化しています。現場の負担を少しでも軽減できるよう、介護職の ICT リテラシーを高める教育が大切だと考えます。